



スペシャルオリンピックスの活動

2008年2月、SV2004では「スポーツボランティア入門説明会」を開催しました。「興味はあるけれどどんなものか知りたい」「いろんな種類があるようなので違いを聞きたい」など、初めての人には複数のスポーツボランティアの活動をわかりやすく、既に活動している領域を広げたい人には特色をもった4つの組織について説明しました。その中で、実際にサポートを受けるアスリートも登場し、ひときわ参加者の注目を集めたのが「スペシャルオリンピックス日本・宮城」の説明でした。今回はその全国で行われている活動の一端を紹介します。

「スポーツボランティア入門説明会」については <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/> に報告を掲載しています。

<スペシャルオリンピックス(SO)とは> ~ あなたができることでの“ボランティア”をお待ちしています

知的発達障がいのある人たちの自立と社会参加をめざして、日常的なスポーツトレーニングと、その成果を発表する場である競技会を提供する国際的なスポーツ団体です。設立のきっかけは、今から46年前、故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が自分の知的障がいの姉ローズマリーとほかの知的障がいの人のために、自宅の庭を開放してデイ・キャンプを行ったことでした。泳いだり走ったりしたことのない人たちにスポーツの楽しさを味わえる機会を提供したい、スポーツを通じて知的発達障がい者と共生できる社会をつくりたいというものでした。

その後、ケネディ財団の支援を受けて組織化され、第1回SO夏季世界大会がシカゴで開催されました。SOの活動は全米から世界へと広がり、88年には国際オリンピック委員会(IOC)より「オリンピック」の称号使用を認められました。スペシャルオリンピックスが複数形なのは、世界中いつでもどこでも活動していることからです。現在、その輪は世界148の国と地域に広がり、150万人のアスリート、100万人のボランティアが活動に参加しています。

日本でも全国各地に地区組織があり、アスリート約6500人、ボランティア約20000人が年間を通じて活動しています。

(スペシャルオリンピックスでは、参加する知的発達障がい者を「アスリート」と呼び、その家族「ファミリー」、「ボランティア」が一緒に活動しています)

<スペシャルオリンピックス日本(SON)・宮城の歩み>

SON・宮城は、95年に全国で6番目の地区組織として発足し、翌年冬季ナショナルゲーム(アルペンスキー)を宮城県蔵王町えぼしスキー場で開催。03年3月にはNPO法人格を取得し、現在アスリート150人、実施プログラムは15競技に取り組んでいます。



現在行われているプログラム

ボウリング・体操競技・水泳・バスケットボール・陸上競技・テニス・バレーボール・卓球・フィギュアスケート・アルペンスキー・クロスカントリースキー・スノーシューイング・サッカー・ポッチャ・社交ダンス

<SOでボランティアしてみませんか>

アスリートたちは、自分たちと共に活動してくれるコーチを待っています

スペシャルオリンピックスは、アスリートと共にスポーツプログラムを楽しむコーチ・ボランティアとして、どなたでも活動できます。スポーツが得意でなくても、競技の経験がなくてもSOのゼネラルオリエンテーションとコーチクリニックを受ければ、どなたでもコーチとして参加できます

(スポーツボランティアは、どなたにでもできます)

第4回SO日本・冬季ナショナルゲーム・山形より

よくある質問にお答えします! 「アスリートに指導するとなると、本格的な競技経験が必要では?」

→技術指導は、ヘッドコーチが中心となって行います。ですから競技経験がなくてもまったく問題ありません。初心者でもたくさんの方が参加しています。

「アスリートケアには養護学校の先生のような知的発達障がい者の専門知識が必要では?」→先輩コーチがアスリートに関する必要最低限の知識をお伝えしますので、現時点での専門知識は必要ありません。

「ボランティアの仕事はスポーツ主体で、スポーツが苦手な私には向いていないのでは?」→アスリートに応援や拍手をするだけでも立派なボランティアです。マネージャーとして 運営業務のみの参加も大歓迎です。

(1年間に、9daysのボランティアです!) 1回のトレーニング時間は、約2時間です。ひとつのプログラムは週1回で8回連続して行われ、9回目に競技会(発表会・記録会)が開催され、アスリートの成果を讃えます。

<会員になってください>

スペシャルオリンピックスは、コーチ・ボランティアとして、アスリートとして、ファミリーとして、いつでもどなたでも会員になれます。又、活動できない方も賛助会員として応援いただけます。

[チャリティBOXを置かせてください]

お一人おひとりの小さな志が、とても大きな支えになります。

お店や飲食店または会社のカウンターなどにチャリティBOXを置かせてください!

BOXは1個からお届けいたしますので、ご連絡ください。

[このページはスペシャルオリンピックス日本・宮城の協力で作成しました]

詳しくは、下記にお問い合わせください。

NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・宮城
〒980-0014

仙台市青葉区本町3-5-22 宮城県管工事会館2F

◆022-711-6835 022-264-4888

公式ホームページ <http://www.son-miyagi.jp/>

e-mail info@son-miyagi.jp

全国各地にもSOのネットワークがあります。

スポーツボランティア・リーダー研修会参加報告

このSVニュースの創刊号でもある3月号で特集した「東京マラソン」、その日本最大規模のイベントの誕生を働きかけ、更にその運営をボランティアとともにサポートしているのが「笹川スポーツ財団」です。今年の東京マラソンは2月17日(日)に開催され約3万人のランナーを1万人を超えるボランティアがサポートしました。スタートからフィニッシュまで、事前の準備段階から終了後の清掃活動まで、今や東京マラソンはボランティアやそれを取り巻く都民のボランティア精神無しには成り立たないといっても過言ではありません。一方、全国で継続的に活動している多くのスポーツボランティアにとって、活動の中でどのように仲間とコミュニケーションをとり、より良い成果につなげるのか、ボランティアリーダーの役割はますます大切なものとなりつつあります。しかし、ボランティア全体はもとよりリーダーを対象した研修はほとんどないのが実態でした。そこで、東京マラソンに参加したボランティア仲間から情報をいただき笹川スポーツ財団が主催する「スポーツボランティア・リーダー養成研修会」に参加しました。

<参考> 笹川スポーツ財団ホームページ <http://www.ssf.or.jp/>
研修会ページ http://www.ssf.or.jp/wk_sem/200806_volunteer.html

【 スポーツボランティア・リーダーの役割 】

冒頭の講師はマラソンランナーとして3回のオリンピックに出場し、現在は東海大学教授の宇佐美彰朗氏。近年、スポーツイベントの運営に携わり、サポートする存在としてボランティアの存在が重要なものとなっており、「自発性・無償性・公益性」が特徴であること。リーダーの役割では右欄の基本的な考え方に立ち、「主催者とボランティアのかけはしとなること」が求められるということでした。そのため一般のボランティアよりも経験をつむことや、多くの知識を持ちイベントの目的をはじめ全体像を把握したり、基本的なルールの確認と何よりも主催者の意図を知ることが大切となります。

【 ボランティア・リーダーの心得 】

では役割を果たすための基本的な(最低限の)心得、ということで事務局の方から説明があったのは、(1)準備に力をいれる(2)あいさつは大きな声で(3)モチベーションが上がる環境作り(4)ボランティアメンバーへの気配り(5)自らがイベントを楽しむということでした。

【 コミュニケーション技法 】



講義編の最期はリーダーとしてボランティアの仲間と接するために必要な、コミュニケーションの技法を(財)日本レクリエーション協会の東さんから教わりました。見知らぬ人同士を短い時間で打ち解けさせるアイスブレイクのゲームは、絶えず笑顔がこぼれる内容でした。遊びながら「相手の目を見ること、笑顔を作ること」などコミュニケーションの基本が身につくことは簡単ではありませんがとても重要なことだと感じました。もちろん、その日初めて会った参加者が、その後連れ立って昼食に向かい、午後の実技もなごやかに行われたことはいまでもありません。

【 実習編 】 ~ マラソン大会を題材にした体験学習



ここでは場所を皇居桜田門に移して、マラソン大会を想定した体験実習を行いました。事務局からは大卒の役割は指定されるものの、分担や細かい約束事、トラブルへの臨機応変な対応などは参加者・チームに任せられるということで、「スタート編」「コース編」「ゴール編」の3種類を行いました。たとえば「スタート編」では、受け付けの案内・受け付け・荷物の預かり・スタートラインへの誘導・スタートなどの役割があり、選手役の参加者が、突然外国人に扮したり、トイレの場所をたずねたり、預ける荷物に金塊が入っていると係りを困らせたりと互いの知恵比べとなりました。ひとつの実習が終わる都度事務局からは、何が良かったのかのコメントがあり(余程のことがない限り悪かったことの指摘はなく、良かったことに終始したのもポイント)、リーダーとして様々な想定をする姿勢が自然と身につく内容でした。

【 レポートの提出 】

今回の参加者は主催団体から「スポーツボランティア・リーダー」として認定されます。けれどそのためには、単に研修を受けたということだけではなく、「スポーツボランティアとはどういうものだと思いますか」「スポーツボランティア・リーダーとしての行動目標について」というレポートの提出・審査があるのです。こうした一連の研修の手法はとても参考になるものでした。残念ながら今年の研修会は既に終わりましたが、自分たちの活動を見直すため機会があれば参加してみたいかたがでしょうか。 【 写真は笹川スポーツ財団提供 】

スポーツボランティア意識調査

全国スポーツボランティア意識調査 No.1 (2008年8月実施) その2

< 調査の目的 >

今私たちの周りでは数多くのスポーツイベントが開催され、たくさんのスポーツボランティアが日常的に活動するようになっています。組織の形態も担当する活動内容もさまざまですが、そこには地元のスポンサーイベントやチームを支えたいという強い思いがあります。しかし、自発的に参加することが基本となっている活動は、決して楽しいことばかりではなく、いつしか活動を止めていく人も多いのも実情です。そこで経験が豊富で全国のプロスポーツチームのサポートの中でボランティアとしてリーダー的なポジションにある方々に、活動のエネルギーや課題について答えていただきました。調査はメールにて行い回答もメールにていただきました。

【 協力いただいた地域 / 北海道・東京・愛媛・静岡・千葉・広島・茨城・新潟・神奈川・山梨・宮城・山形 / 回答順 】

ボランティアと情報について

自発的に参加しているボランティアのモチベーションを高め、より楽しく活動してもらうために、また、活動を通じたさまざまな改善をより効果的に進めるためには、どうボランティアとコミュニケーションをとるかが重要となります。その中で定期的な情報共有の方法について調査してみました。

Q4 活動の主催者からの情報は何で届きますか。

Q5 ボランティアの情報共有はどんな方法で行っていますか。



ボランティアとの情報交換で最も重要なもののひとつが出欠確認であり、これを中心としてボランティアへの情報発信については、ふたつの段階があるようです。まず活動の当日以外については多くの組織で「メール」が中心となっています。ただし、メール環境を持たない人もいるため、「電話・FAX・郵送」などが補完的な手段として活用されています。このほかにメールに近い手段としてホームページに会員専用のページを設けたりブログを作るケースや会員専用のメーリングリストを作っているところ（新潟・甲府など）もありましたが、メンテナンスの責任を誰が持つのかといった課題も指摘されました。

次に活動当日については、試合前後にミーティングを行っている（山形・水戸・

【活動当日配布される資料 = 仙台 89 ERS】 広島・札幌など）という回答が多く、次いで「掲示板」を積極的に活用（新潟・仙台・磐田・千葉など）という回答が多く、新潟では、ほぼ毎試合ボランテ

ィア有志が「ボランティア通信」を作成し掲示板に貼ったり、壁新聞を作り掲示している（愛媛）など、より効果的に見せるための工夫をしている組織もありました。尚、こうしたボランティア同士の連帯感や情報の共有のために「広報誌」を作成しているところは徐々に増える傾向にあります。（千葉・川崎・横浜・大分など）どうしても一方通行になりがちな情報の流れを整理し記録として残すという意味合いにおいてもこうした取組みは注目されます。

また、情報を活動の改善につなげるという視点で「アンケート」を実施しているところもありました。（新潟・広島など）積極的にこうした取組みを行っている組織に共通しているのは、迅速に回答を返す（掲示板などを活用）姿勢が徹底されていることであり、運営する組織とボランティア組織とのコミュニケーションが良いということがわかります。

Q6 現在の情報は十分ですか。

十分ではないという意見（仙台・磐田・愛媛・東京など）もありましたが十分ではないが情報は待っていても来ないので自ら積極的に求めるべき（山形）という意見や、必要な情報を届けるためにボランティアとの意見調整をボランティアの中からメンバーを決めて行っている組織（新潟）もありました。回答者がリーダー的な方々ということで、不足していれば自分で確認するという事を前提として「十分である」という回答が過半数以上あったことは特筆に値します。



【掲示板の活用 = 仙台 89 ERS】



【アンケートボックス = 仙台 89 ERS】

ボランティアとして成長について

ボランティアもとりわけリーダーとしてどうあるべきか、更に少しでも成長するために何が必要なのかを確認するためにふたつの質問を行いました。

Q6 もっとボランティアとして成長・レベルアップしたいと思いますか。

この質問では大半が「成長したい」という回答でしたが、「人間として最低限のコミュニケーションスキルは必要だと思うが、ボランティアとしてのスキルを求めすぎるとボランティアではなくなる気がする」という意見や、「現状のお手伝いするという立場が自分としては望ましい」「マネジメントという意味ならそこまでは考えていない」「成長というよりまずは基礎固めが大切」という意見もありました。その意味では、ボランティア活動に求めるものやボランティア組織の活動年数などの違いによって意見が違ってくると考えられます。

成長することが楽しみ（東京） レベルアップすべき（愛媛） むしろ人間としてレベルアップするためにボランティア活動を活用させてもらっています（千葉） アウェイの活動などで勉強しています（柏）



【バスケットボールの基礎知識】



【救命セミナー】



【エコセミナー】



【接客研修】

Q7 成長したいレベルアップしたいのはどんな分野ですか。

Q8 成長するための研修はありますか、またなければ必要ですか。

この質問では、Q6で必要ないという方も含めて「必要」という回答が圧倒的に多く、一方では現状研修があるという回答は「仙台・水戸・磐田」などで、限定された範囲についてあった程度で、ボランティアの成長のための研修制度の不足が浮き彫りになりました。

<研修が必要と思う分野・内容>

お客様の対応・接客（山形・川崎・広島・千葉・東京など）

エコに関する知識（仙台）

救命や災害の知識や研修（仙台・新潟など）

障害者の対応や福祉の知識（新潟・柏など）

現状の課題から求められるものとして

ボランティアを増やす方法について（愛媛・水戸など）

楽しくボランティア活動が出来る講座（川崎）

そしてリーダーに必要な研修として

リーダーとしての資質アップ（甲府・磐田）

ボランティアのコーディネートについて（山形）

モチベーションの維持（仙台）

回答は多岐にわたったが、現実的な問題として活動のシーズン中に研修を行うだけの余裕が主催者やボランティア組織には無いのでは、という指摘もありました。必要という認識と、しかし、研修ができないという現実。このギャップをどうすれば埋められるのか課題となっています。

活動するスポーツや、担当する活動内容のようにある程度特化したものについてはやはり運営組織が中心となってシーズンオフなどを上手に活用して研修を行う方法があるでしょうし、接客や環境、救命などのように必ずしもスポーツボランティアだけに求められるものではない知識については、ボランティアのリーダーや有志が発起人となり、地域の市民組織や行政、既にボランティアリーダーなどの研修において先行している「福祉・環境」系の組織との連携によって研修を行うなどの工夫も必要と感じました。

人が人に伝えることを均一化することはなかなか困難です。研修をより効果的に実施するための仕組み作りはスポーツのボランティアの世界ではこれからです。基本となるマニュアル作りから始まり、それを映像化したり、簡単に自宅のパソコンで好きなときにみても学べる仕組みなど一般企業の研修の長所を取り入れたシステム作りが今後求められます。

～ その場合、個々の組織ではなくリーグとしてのサポートがあればと思います。

情報の項目の写真はプロバスケットボールbjリーグの仙台89ERSの活動時のもの、研修の写真はSV主催のものを使用しています。この調査報告はNo.3（交流・自慢・課題編）に続きます。

掲載は11月号を予定しておりますが、紙面の都合で変更となる場合もありますのでご了承下さい。

スポーツのボランティア、特に継続的な活動ではプロサッカーのJリーグの活動が全国的に活発です。その中でひとつのスタジアムをふたつのチームがホームとしているのは東京の「味の素スタジアム」だけ、とりわけ先輩格の「FC東京」のボランティアは熱心で遊び心のある活動で知られています。今回はその活動の一部を紹介します。

FROM 東京

都内初のJチームのサポート「FC東京・市民スポーツボランティア」

< 誕生の経緯 >

FC東京はJ2が誕生した1999年リーグ2位となり翌2000年から現在のJ1リーグに参戦しています。初の東京をホームとするJ1クラブの誕生に際し、ホームスタジアムである当時の東京スタジアム周辺3市（府中・三鷹・調布）の各商工会、青年会議所、サッカー協会、行政の有志が集まりFC東京を媒体として地元の発展、市民のつながりを広げ世代を超えたサポートを目的として2001年1月に発足したのが「FC東京・市民スポーツボランティア」です。

< 参考 >

FC東京ホームページ <http://www.fctokyo.co.jp/>

FC東京ボランティア・ホームページ <http://www.fctokyo.gr.jp/>

< 活動紹介 >

8年の歴史を誇るFC東京ボランティアはホームの「味の素スタジアム」で開催されるゲームの運営をサポートしています。その中心は「案内業務」や「ファンクラブ・イベント」のほか、珍しいものでは場内で聞くことができる「ラジオのレンタル」などもあります。また、FC東京が行う地元イベントの補助も長年サポートしています。

いただいた資料で2007年の活動をみると年1回以上活動に参加した方が199名となっており、1試合平均では67.5名となっています。最も年間活動回数が多いのは「2～4回」であり全体の31%を占めていますが、全19回参加という方もいました。男女比では男性が53%、年代別では全ての登録数528名に対して205名が20代、ついで30代が113名、40代が68名となっています。少し古いデータ（2002年）ですが参加者の住居は約半数が府中・三鷹・調布エリアとなっているものの、かなり広範囲から参加していることがわかります。こうした数値を背景として、「組織の自慢はなんですか」という質問に対し組織の運営コーディネーターの吉田さんは、「10代から70代までの幅広い年齢層での一体化した活動」「幅広い地域からの参加」「年間を通しての会員間の親睦を目的とした活動」を挙げてくれました。

< 親睦企画の多様さ >

組織の自慢の取組みともなっている親睦企画、その内容は実に多様です。ボランティアのフットサルチーム「AGORA」が年間を通じて活動しているほか、狛江で開催される「古代いかだレース」に参戦、8月にはサントリー武蔵野工場での「愛と炎のビール懇親会」が、そして12月には「愛と炎の大忘年会」が定期的に開催されているようです。また、外部のボランティアとの交流にも熱心で、2007年にはJリーグ・オールスターサッカーにボランティアとして参加したほか、全国Jリーグホームタウンサミットへの参加、アウェイバスツアーで新潟のビックスワンを訪問しています。楽しい雰囲気はボランティアのブログに、ホームゲームの活動が終わると決まって撮影されているボランティアの集合写真にも感じられます。（毎回記録する努力は素晴らしいと思います、そして写真をとって活動を終えることに組織のまとまりを感じます）

< これからの課題 >

いかに活動会員の定着がはかれるか、そして登録者数に対して実際の活動者参加者が少ないことを改善し、参加者を増やすことができるかが課題ということでした。全国のJリーグ発足当時からチームのボランティア組織の多くが、世代の交代や後継者の育成を課題としています。その意味ではぜひ互いの成功事例を学んでいきたいものです。

< 全国のスポーツボランティアへのメッセージ >

「地域コミュニティの活性化という意味で活動の意識は一緒だと思います。これからも地域間のコミュニティを模索しながらお互いに意識の向上に努めていければと思います。」

協力 FC東京・市民スポーツボランティア
運営コーディネーター 吉田 英樹さん
文責 SV2004 泉田 和雄

SV2004

活動報告

新潟・山形・仙台
ボランティア交流「芋煮会」報告
2008年9月21日



第4回、山形・仙台芋煮対決

参加 新潟・山形・仙台・東京のスポーツボランティア 25名



それは2005年、東北ホームタウンサミットの際に冬の山形に集まったメンバーが、せっかくなので山形名物の芋煮を食べるイベントをやろう、ということで始まりました。もともと山形の芋煮はしょうゆ味、宮城は味噌味ということでやがて「鍋対決」がキーワードとなってきたようです。あれから4年、山形をはじめ各地の窓口メンバーが熱心に呼びかけ、毎年、3県以外の飛び入り参加者を加えて一度も途切れることなく続いてきました。



もともと山形は芋煮会で有名な地域であり、その中でも例年会場となっている「馬見ヶ崎河原」には、水道・トイレなどが完備、まさに「芋煮会」のために用意されている場所です。予報が時折雨となっていたため、山形のメンバーが前日に橋の下の場所を確保してくれ、集合時間に集まった参加者は濡れることなく楽しむことができました。まずは鍋の土台となる石を河原から男性陣が集め、女性陣はさっそく材料を刻む場所を作ります。このあたりの分担が特に誰かが号令をかけなくても決まるのはやはり経験でしょうか。今回は山形風が二つ、宮城風が一つ、玉こんにゃく用がひとつに、謎の鍋が一つと合計五つの鍋が準備されました。さすがにこれだけの数となると、火おこしも大変でした。はやくもビールが配られ、焼肉やソーセージが焼きあがりマイはしをもって集まるように声がかかりました。

いくつかのグループに分かれて談笑しながら鍋の中身の世話をしていると、いつの間にか私たちのまわりにも芋煮を楽しもうという別のグループが増えていきます。本格的には10月から11月なのですが、気の早い人々は意外と多いようです。芋煮の出来上がるまでのこの時間は貴重な情報交換の時間となっています。

やがて12時が近づくころ、無事に「芋煮鍋」が完成、「自分のおわんとはしを持って集合してください」と声がかかります。(コップも含めてなるべくごみをださないことは、日ごろスポーツ会場で観客のだすごみと格闘している仲間ならではの決まりごとです)まずは「玉こんにゃく、しょうゆがしみてやや大きめのこんにゃくははしに刺してふるまわれ、あつという間に胃の中に、次に山形と宮城の芋煮は、具がいっぱいでバランス良く食べないとお腹はすぐいっぱいになります。見事だったのはその後、残っていたひとつの鍋でお湯がわかされ、「枝豆」がゆでられたと思ったら、それを女性陣がすり鉢で「ずんだ」にし「ずんだ餅」を作ったのです。適度に甘い餅は別腹でした。

次は、芋煮の残った汁をつかって「うどん」と「ラーメン」が作られます。ベースは芋煮の汁ですが、きちんと味が整えられて、本当にいい味でした。このあたりで橋の下にしいたブルーシートに横になって眠りこける人も出始めます。持ち寄りのお酒、ビール、各地の地サイダーなども人気のようです。やがて芋煮会のしめは湯せんして溶かしたチョコレートにバナナやポテトチップをつけたお菓子、アイスクリームが登場、大満足の食事が終わりました。準備や様々な知恵をふるってくれた方々に感謝です。

後片付けも全員で行いました。特に近くのスーパーから借りてきた鍋は丁寧に洗いました。かまどとして使った石もじゃまにならない場所に移動、最期は参加者全員で記念写真、ふと時計をみると16時、あつという間の6時間でした。「また今度」、河原に声が飛び交います。



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円 (年度は4月～翌年3月となります)

準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

多くのチームでボランティアを募集中です
プロバスケットボール bjリーグボランティア < 各チームの公式ホームページより >

- 【仙台89ERS】 ボランティアページ <http://www.89ers.jp/community/index.html>
- 【新潟アルビレックス】 運営スタッフページ <http://www.albirex.com/volunteer/index.html>
- 【富山グラウジーズ】 ボランティアページ http://bj-gr.jp/news/2008/09/post_528.html
- 【埼玉ブロンコス】 ボランティアチームページ・GREEN SPIRITS <http://www.saitamabroncos.com/08-09volunteer.htm>
- 【東京アパッチ】 ボランティアページ <https://gt106.secure.ne.jp/gt106166/07-08volunteer/>
- 【浜松・東三河フェニックス】 ボランティアページ <http://bj-phoenix.com/volunteer.html>
- 【滋賀レイクスターズ】 ボランティアページ <http://bjshiga.shiga-saku.net/e115203.html>
- 【大阪エベッサ】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。
- 【高松ファイブアローズ】 ホームページ上にはページをみつけられませんでした。
- 【ライジング福岡】 ボランティアページ・ライジング福岡サンダーバード <http://rizing-fukuoka.com/intem.html>
- 【大分ヒートデビルズ】 ボランティアページ・デビルズブループロジェクト <http://www.heatdevils.com/booster/dbp.html>
- 【琉球ゴールデンキングス】 ボランティアページ <http://www.okinawa-basketball.jp/kings/volunteer/index.html>

08 - 09シーズンより新規参入するチームです。

(注意) 内容は08年10月03日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略 >

吉田 英樹 和智 彰 笹川スポーツ財団 スポーツボランティア調査に協力いただいた全国のボランティアのみなさん
スペシャルオリンピックス日本・宮城 山形芋煮会参加者の皆さん

**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)
を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場として
SVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

スポーツボランティア・ハンドブック(日本スポーツボランティア学会編/明和出版)・・・スポーツに関する書籍紹介ありそうでなかった「スポーツボランティア」の活動を紹介した本が、この6月発行されました。編者は「日本スポーツボランティア学会」となっています。主な項目をあげればスポーツボランティアの変遷からはじまり、現在の活動分野やさまざまな活動内容、さらに心構えや今後への期待までを海外を含むたくさんの事例でわかりやすく紹介しています。

このSVニュースでも何度か取り上げている「東京マラソン」についてもかなり詳しく取り上げていますので、ぜひご覧ください。結び近く市民の手によりスポーツボランティアのところに、こう記されています。「スポーツボランティアが縁の下の力持ちではなく、スポーツイベントを企画・運営するスタッフの一員となって活躍できる体制作りを進める必要があります。」と。今まで漠然と考えていたスポーツボランティアのこれからの方向性を示してくれる一冊だと思います。

日本スポーツボランティア・アソシエーション(NSVA) <http://www.nsva.or.jp>

日本スポーツボランティア学会は、日本スポーツボランティア・アソシエーションの活動部門のひとつとして、2003年12月に設立されました。

編集後記

もうすぐプロバスケットボールのbjリーグの2008 - 2009シーズンが始まります。今年から新たに「浜松・東三河フェニックス」と「滋賀レイクスターズ」を加えて12チームとなり、当然より激しいゲームが予測されますが、開幕を控えた二つのチームの関係者やボランティアは今どんな気持ちなのでしょう。「初心」という言葉がありますが、ぜひ、せっかくのスタートなのでから記録し、歴史を残すことにも目を向けて欲しいと思います。やがて何年か、何十年かたったとき、自分たちの思いや活動の変遷を確認することで知らない間に失われてしまった「初心」を振り返るのも、時には大切なことだと思うからです。

一方で、昨年で引退し、今年はチームのスタッフとなって私たちと一緒に活動する予定の元選手もいます。新しい環境に身を置くことは決して楽ではないはずですが、けれどバスケットが、そしてチームが好きという思いを共有し助け合っていきたいものです。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp